



モビリティDXプラットフォーム のご紹介

1. 自動車技術会のご紹介

2. モビリティDXプラットフォーム事業について

1

公益社団法人 自動車技術会の ご紹介

1-1 | 公益社団法人 自動車技術会の概要

工学系で日本最大の学術団体

設立

1947年（昭和22年）

会員数

個人会員：46,089名
法人会員：793社・団体 ※2024年10月 時点

設立の 趣意

これまで、各種団体が個別に担当してきた多種多様な自動車技術を一丸となって学術振興・産業経済の発展・国民生活向上に寄与させるため発起

ビジョン・ミッション

人と知をつなぎ、
モビリティの
未来を支える。

私たちは、自動車に関わるすべての人が知を共有し、技を磨き、未来を共に創造し合う「場」でありたい。
モビリティ技術は、絶えず進化を求められている。
暮らしを豊かにし地球環境に負荷をかけない。
そんな社会を実現するために、
あらゆる壁を越えた交流・共創・発信・育成を、
私たちは推進していく。スピーディーに、そして力強く。

技術者の魂を揺さぶる
「場」であり続ける。

公益社団法人 自動車技術会



公益社団法人 自動車技術会



技術者の
魂を揺さぶる
「場」であり続ける。

私たちは、自動車に関わるすべての人が知を共有し、技を磨き、未来を共に創造し合う「場」でありたい。
モビリティ技術は、絶えず進化を求められている。
暮らしを豊かにし地球環境に負荷をかけない。
そんな社会を実現するために、
あらゆる壁を越えた交流・共創・発信・育成を、
私たちは推進していく。スピーディーに、そして力強く。

人と知をつなぎ、
モビリティの未来を支える。

◎ 研究発表、展示会

- ・ 聴講者 1 万人超/年の研究発表会を実施
- ・ 来場者10万人超/年の展示会を実施



情報共有、交流の
「場」を提供



【自動車技術会 研究発表会】

(春季、秋季)

- 発表者
国内外の自動車メーカー、アカデミア
サプライヤ、設備ツールメーカー
- 発表テーマ
内燃機関、メカトロニクス、電動化、
自動運転、安全、環境、リサイクルMBD、
電池、AI適用etc.



【人とクルマのテクノロジー展】

(@横浜、名古屋)

- 出展者 (国内外)
自動車メーカー、部品サプライヤ、
設備・ツールメーカー、スタートアップ、
技術コンサルタント、地方自治体etc.



● 技術者の育成

100を超える教育講座（科目）で、
社会人技術者～次世代技術者（小～大学生）を育成

【豊富な専門講座(社会人)】



【キッズエンジニア(小学生)】



【学生フォーミュラ(大学生)】



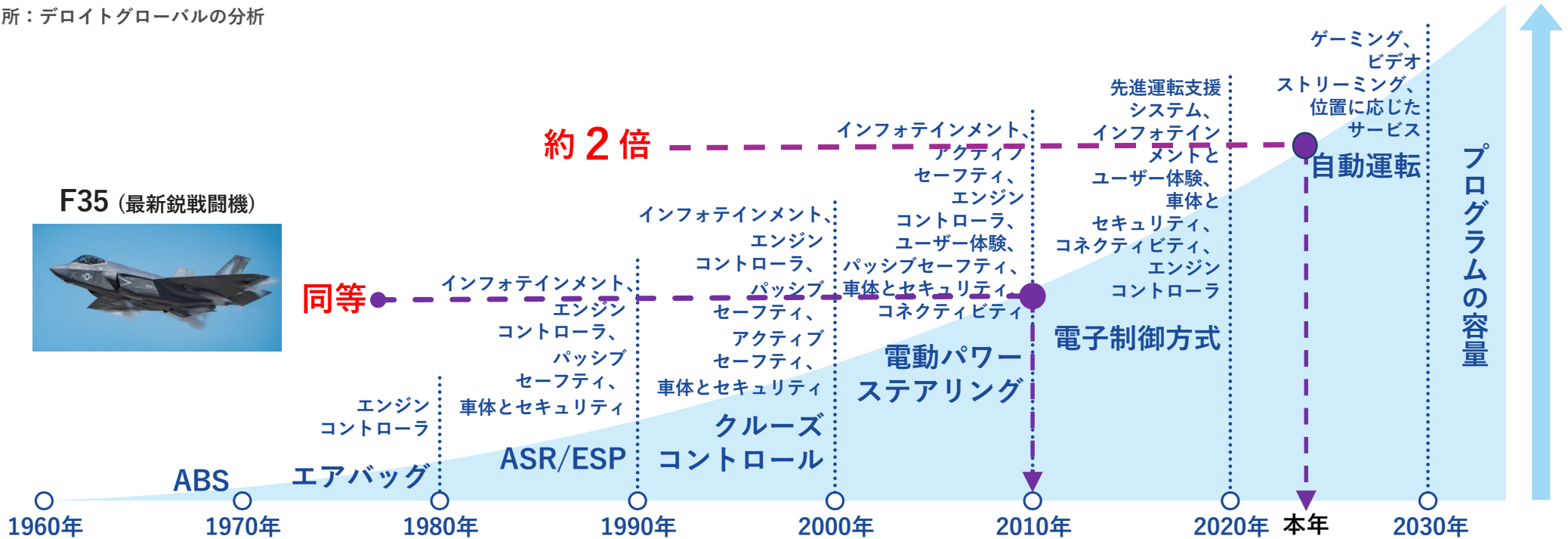
2

モビリティDX プラットフォーム事業について

2-1 背景：ソフトウェア容量と車両機能の推移

車両機能の増加に伴い、ソフトウェア容量は年々増加！

出所：デロイトグローバルの分析

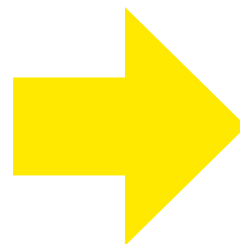


2-2 | ソフトウェア容量と車両機能増大による共通課題と取組み

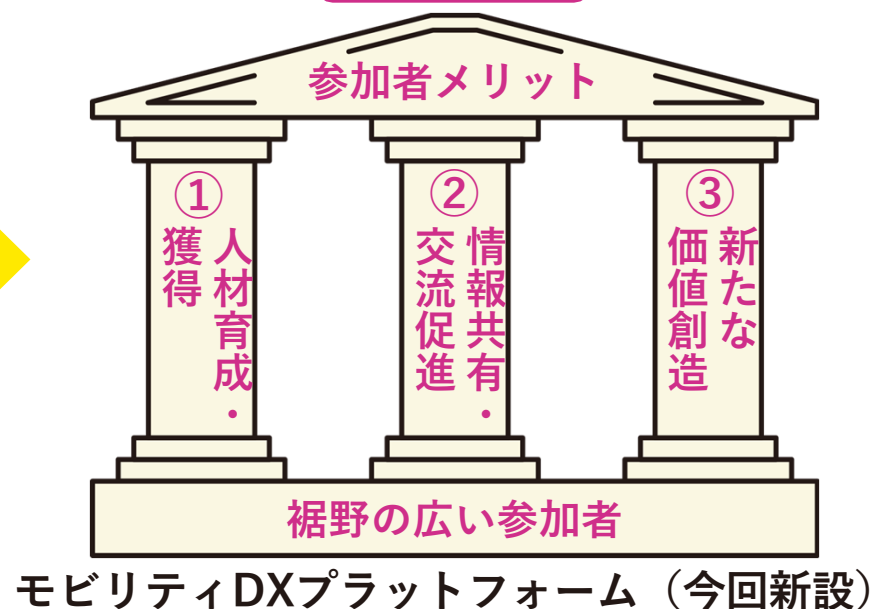
下記①～③の共通課題を協調領域化して解決するために
国のご支援を賜り「モビリティDXプラットフォーム」を新設

共通課題

- ①
・ソフトウェア人材が足りない
・育成が追い付かない（非効率）
- ②
・多種多様な情報共有が困難
・従来の枠組みを超えた交流が困難
- ③
・ニーズ、政策等の変化が激しく
新しい取組みへの検討が困難

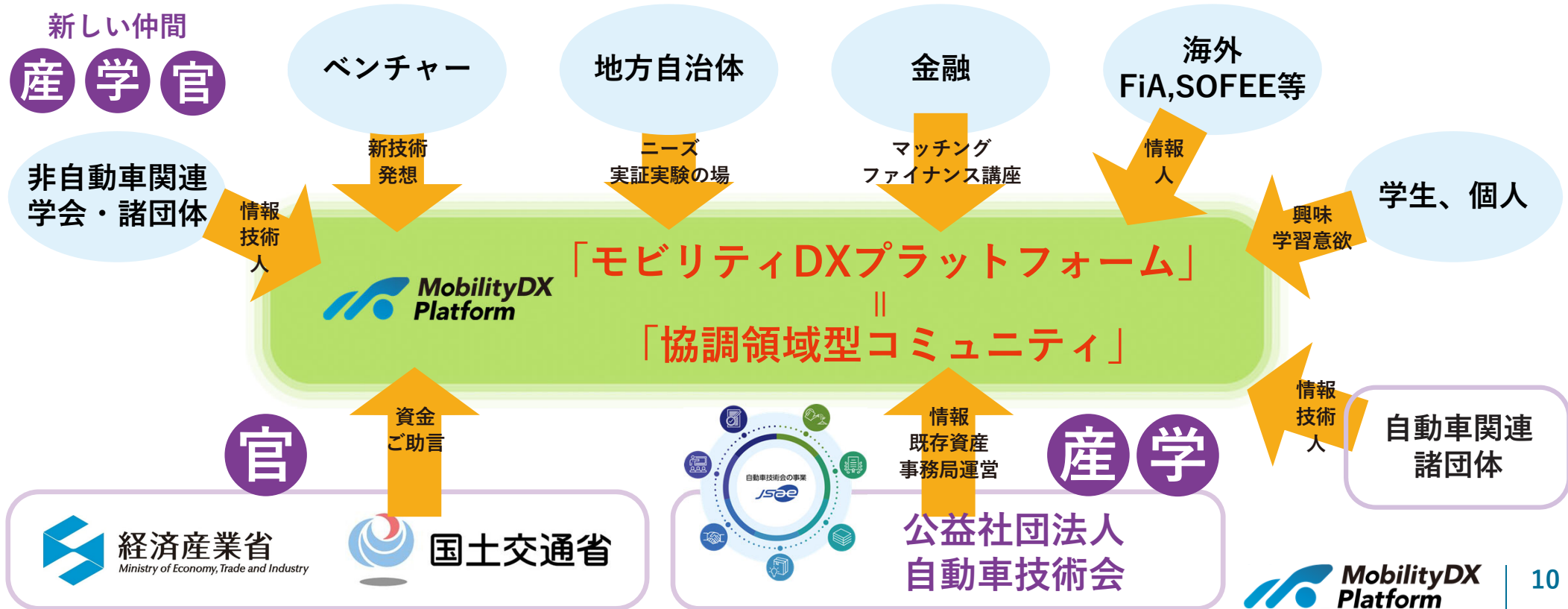
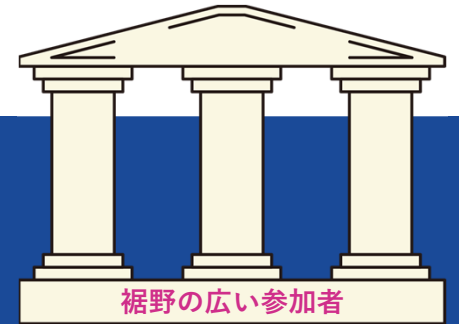


取組み

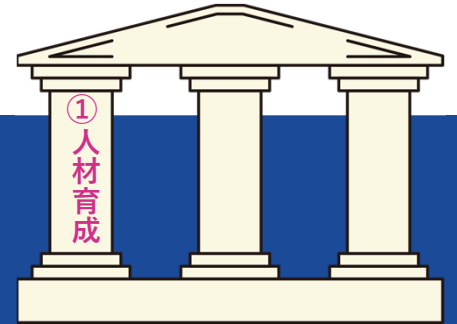


2-3 | モビリティDXプラットフォームのプレイヤー

自動車技術の裾野を広げた「産学官」が
参加活用できる「場」を創造する



2-4 | ①-i 人材育成講座の技術領域拡大



必要な人材を育成するために、
ソフトウェア技術を始めとする教育講座を拡張していく

【OTAアップデート講座】



システムズ
エンジニアリング講座



【データ連携基礎講座】

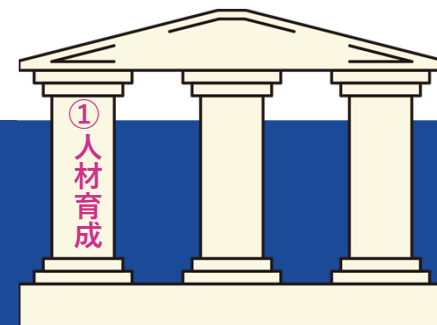


【AI自動運転基礎講座】



2-4 | ①-ii コンペティションの活性化

各種コンペティションを整備し、
裾野の広い参加者に技術を磨く「場」を提供



【自動運転ソフトウェア開発スキル】



自動運転AIチャレンジ

自動車技術会、経済産業省

【サイバーセキュリティスキル】



Automotive CTF Japan

VicOne、経済産業省

【DX新価値アイデア創造】

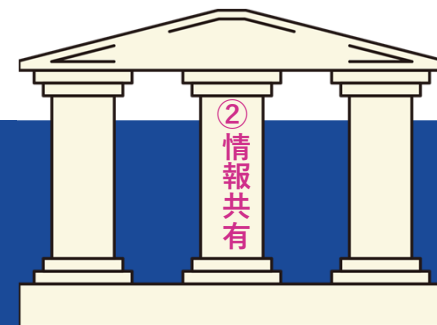


SDVアイデアソン・ハッカソン

モビリティDXプラットフォーム

広報、参加者集めをサポートし、
同時にモビリティ技術/業界への興味関心を喚起

2-4 | ②情報共有・交流促進



●各種イベント・ワークショップの開催

- ・連携を促進する各種交流会の新設・自動車技術会主催イベントに併設

●情報発信

- ・政府・事業者・研究機関等の国内外の取組動向について様々な情報を配信（月1回以上）



モビリティDXプラットフォーム HP



「くるまからモビリティへの技術展」
「人とクルマのテクノロジー展」と連携

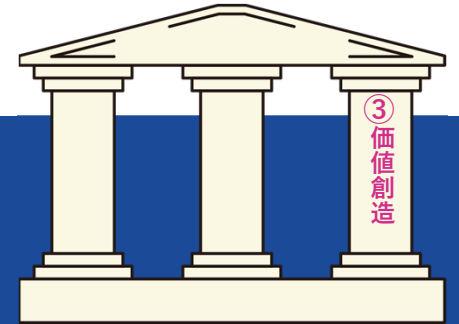


各種技術講演会



自動車技術会 会誌
(約5万部/月)

2-4 | ③新たな価値創造

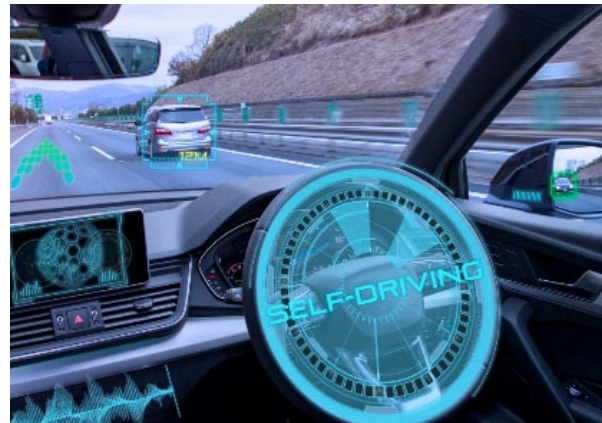


●新しい価値創造に向けた議論の「場」を提供

- ・SDV、自動運転、データ利活用をテーマに、有識者や関心のある方々に集まって頂き、新たな価値創造に向けた議論を促進（毎月開催）



SDVトークセッション
(Open SDV Initiative)



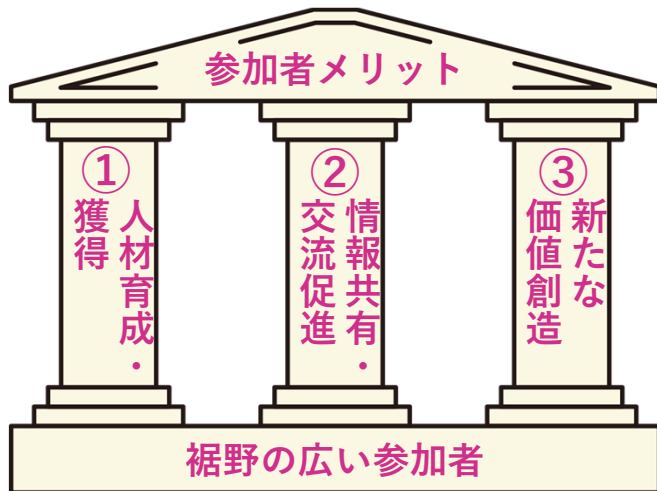
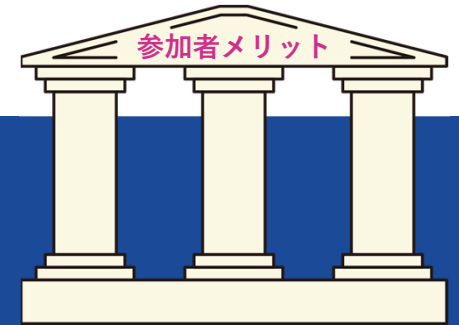
自動運転トークセッション
(Mobility Innovation Alliance)



データ利活用トークセッション

2-5 | まとめ

- 幅広い仲間が活用可能なモビリティDXプラットフォームを「産学官」で新設します
- 自動車技術の裾野を拡げて検討や議論を深めることが、日本の自動車技術・自動車業界の競争力の源泉になると考えます
- 技術の多様性を拡げてモビリティの未来を牽引していきましょう



モビリティDXプラットフォーム（協調推進のためのコミュニティ）



2-5 | 最後に

モビリティの未来を牽引するプラットフォームに皆で育てるために、ご参画、ご支援、ご質問、ご要望、ご相談をお待ちしております。

モビリティDXプラットフォーム事務局（公益社団法人自動車技術会）

mobilityDX@jsae.or.jp



モビリティDXプラットフォーム
無料会員登録：

[https://www.jsae.or.jp/enquete/
mobilitydx_newsletter/](https://www.jsae.or.jp/enquete/mobilitydx_newsletter/)



活動内容：
モビリティDXプラットフォームHP

<https://www.mobilitydx.go.jp>

